別紙 1

平成２２年度 事務事業評価調書（継続用）

北広島市

整理番号	4505	事務事業名	身近に親しむスポーツ事業 （市民スポーツ活動推進事業）	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線８９０
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日
事務事業開始年度	H6	根拠法令等	スポーツ振興法第７条				
〃　終了予定年度							

【１ 計　画 （プラン）】

上位施策との関連（総合計画体系）		（第　４　章）　豊かな心と文化をはぐくむまち
		（第　５　節）　スポーツとレクリエーション
		（第　１　施策）　生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興
目的	対　象（誰、又は何を）	市民
	意　図	※ 何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか。 日常生活にスポーツ・レクリエーション活動を積極的に取り入れ、生き生きとした潤いある生活を送ることを目指す。 また、学校の休日拡大や青少年の運動能力の低下を防ぐ面からもスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会を提供する。
手段	平成21年度まで	※ 市が行った事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） ・スーパードッジボール大会（３・４年生） ・いちにのジャンプ大会 ・インドア子ども相撲大会
	平成22年度	※ 市が行う事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） スポーツ教室開催事業と統合して実施

【２ 実　施 （ドゥ）】

（単位：千円）

【事業費の推移】		20年度決算	21年度決算	22年度予算	23年度の予定
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	69	69		
	一般財源	41	41		
	① 合　計	110	110	0	0
人　件　費（概算）	② 人　数（年間）	0.10	0.10		
	③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000		
	④ ＝②×③	900	900	0	0
総　事　業　費　①＋④		1,010	1,010	0	0

【事務事業を評価する指標（ものさし）】			指　標　値				
		指　標　名	単位	目標値	21年度(確定値)	22年度(予定値)	23年度(予定値)
基本指標		事業参加者数	人	700	712		
活動指標	①	事業参加者数	人	700	712		
	②						
	③						
	④						
成果指標	①	事業参加者数目標達成率 【参加者数/目標値】	%	100	102		
	②	【指標の定義（算式等）】					
	③	【指標の定義（算式等）】					

整理番号	4505

【３ 評　価 （チェック）】

チェック項目		評点	平成21年度における評価　（現状と課題）
妥当性	・市民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か （目的妥当性の度合） ・行政が関与しなければならない事務事業か （公共性・公益性の度合）	3	市民のいきいきとした生活の充足や、青少年の健全育成のための事業として行政が関与することは妥当である。
有効性	・成果指標値から見て、目標の達成度はどの程度か （達成度合） ・目的を達成するための手段（実施方法）は有効か （手段有効度合）	2	事業開催に当たっては学校やスポーツ少年団、地域のスポーツ関係団体との関係強化が必要であるが、スポーツ教室開催事業についても同じことが言えることから１つの事業として実施する方が有効である。
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか　（費用対効果の度合） ・効率的な方法で実施しているか （同じ経費でもっと効率的な方法はないか）	3	予算縮小とともに参加賞を取りやめるなど、必要最小限の経費で実施していることから、本事業は十分効率的である。
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3	直接事業費の60%以上を参加料で賄っていることから、受益者負担は適切である。
評点区分	３　適　　切　　２　改善の余地がある　　１　不適切		

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等で実施または協働して取り組むべきである。 ■ 現在一部民間等で実施している。または市民等と協働して実施している。

【 参 考 】	事務事業担当部局による評価	外部評価委員会による評価	内部評価委員会による評価
前年度の総合判定	現状継続		現状継続

【４ 総合判定と今後の方向性（アクション）】

【外部評価】　（外部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化 □ 現状継続 □ 見直し □ 統合 □ 休止・廃止 □ 終了

今後の方向性に対する意見

【自己評価】　（事務事業担当部局による評価）

総合判定（取組）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 □ 現状継続　■ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な取組　（課題と解決方法等）

事業の効率性や有効性を図るため平成22年度から「スポーツ教室開催事業」と「身近に親しむスポーツ事業」を統合し、新たに「市民スポーツ活動推進事業」として実施する。

【内部評価】　（内部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な方向性

現状継続とする。

別紙 1

平成２２年度 事務事業評価調書

北広島市

整理番号	4507	事務事業名	スポーツフェスティバル開催事業 （エルフィンロードハーフマラソン開催事業）	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線８９０
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日
事務事業開始年度	H6	根拠法令等					
〃　終了予定年度							

【１ 計　画 （プラン）】

上位施策との関連（総合計画体系）	（第　４　章）	豊かな心と文化をはぐくむまち
	（第　５　節）	スポーツとレクリエーション
	（第　１　施策）	生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興
目的	対　象（誰、又は何を）	市民
	意　図	※ 何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか。 スポーツや体力づくりなどに関する様々なプログラムを通じて、健康・体力づくりの楽しさを体験してもらい自らの健康管理に関心を持ってもらう。
手段	平成21年度まで	※ 市が行った事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） １ ３０Km歩ける会（３０キロのコースを自分のペースで歩く事業） 2 エルフィンロードハーフマラソン大会（視覚障がい者を含む大会） 3 エルフィンロード活用事業（花水木ウォーク、歩くスキー） 上記の事業を平成20年度より実行委員会の補助事業として実施。
	平成22年度	※ 市が行う事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） スポーツフェスティバル実行委員会は平成21年度をもって解散し、新たにエルフィンロードハーフマラソン実行委員会を立ち上げ開催する。また、エルフィンロード活用事業については北広島市体育協会に移管して実施、30キロ歩ける会については市の主催事業として教育委員会で実施する。

【２ 実　施 （ドゥ）】

（単位：千円）

【事業費の推移】		20年度決算	21年度決算	22年度予算	23年度の予定
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	4,565	5,407		
	一般財源	1,180	535		
	① 合　計	5,745	5,942	0	0
人　件　費（概算）	② 人　数（年間）	1.00	1.00		
	③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000		
	④ ＝②×③	9,000	9,000	0	0
総　事　業　費　①＋④		14,745	14,942	0	0

【事務事業を評価する指標（ものさし）】			指　標　値				
		指　標　名	単位	目標値	21年度(確定値)	22年度(予定値)	23年度(予定値)
基本指標							
活動指標	①	３０キロ歩ける会	人	100	99		
	②	ハーフマラソン	人	1,300	1,580		
	③	エルフィンロード活用事業	人	700	629		
	④		人				
成果指標	①	事故等発生時の処理苦情件数	件	0	0	0	0
		【指標の定義（算式等）】					
	②		人				
		【指標の定義（算式等）】					
	③						
		【指標の定義（算式等）】					

整理番号	4507

【3 評　価 （チェック）】

チェック項目		評点	平成21年度における評価　（現状と課題）
妥当性	・市民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か （目的妥当性の度合） ・行政が関与しなければならない事務事業か （公共性・公益性の度合）	3	市民の健康・体力づくりへの意識は高く、そのニーズも多様化している。健康･体力づくりに関する市民の要求とこの事業の開催目的は合致している。また、行政が関与しながら市民の主体的な活動を助長することからも、この事業は妥当である。
有効性	・成果指標値から見て､目標の達成度はどの程度か （達成度合） ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か （手段有効度合）	3	市民のニーズに合った、幅の広い様々なプログラムを提供することにより、主体的な活動を行なう市民が増えていることから、この事業は有効である。
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか　（費用対効果の度合） ・効率的な方法で実施しているか （同じ経費でもっと効率的な方法はないか）	2	市の一大イベントであり行政が関与して行なうべきと考えるが、市職員の人事異動等に伴う非効率的な部分が見られ、また、開催準備等についても外部発注等を図り効率化を図る余地がまだ十分あると考える。このことから、スポーツ団体への事務局移管、参加料等の見直しを行なうことにより、より効率化を図る必要がある。
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3	事業ごとに参加料を徴収しており公平性は保たれている。
評点区分	3　適　切　　2　改善の余地がある　　1　不適切		

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等で実施または協働して取り組むべきである。 ■ 現在一部民間等で実施している。または市民等と協働して実施している。

【 参 考 】	事務事業担当部局による評価	外部評価委員会による評価	内部評価委員会による評価
前年度の総合判定	見直し		

【4 総合判定と今後の方向性（アクション）】

【外部評価】　（外部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化 □ 現状継続 □ 見直し □ 統合 □ 休止・廃止 □ 終了

今後の方向性に対する意見

【自己評価】　（事務事業担当部局による評価）

総合判定（取組）	□ 拡大重点化　□ 見直し　■ 休止・廃止 □ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な取組　（課題と解決方法等）

効率性で前述したとおり改善の余地はあり、この事業は廃止する。その改善に向けての第1段階としてスポーツフェスティバル実行委員会を平成21年度で解散し、エルフィンロード活用事業については北広島市体育協会に平成22年度から移管を行なった。また、一大イベントであるエルフィンロードハーフマラソンについてはエルフィンロードハーフマラソンのためだけの実行委員会を立ち上げ、将来の移管を前提としてスリム化を図るための方策を今後検討していく。

【内部評価】　（内部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な方向性

エルフィンロードハーフマラソンは現状継続とする。

別紙 2

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	4507

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	きたひろしまスポーツフェスティバル補助事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	きたひろしまスポーツフェスティバル実行委員会　会長　加々見盛幸	設立年	平成17年度
構成員(団体)数	１７名　（22年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	市民へのスポーツ・レクリエーション活動機会の提供を図り、健康・体力づくりに寄与する。		
交付先団体等の活動内容	1 元気フェスティバル(総合体育館を会場にスポーツ･健康をテーマにした事業) 2 ３０Km歩ける会（３０キロのコースを自分のペースで歩く事業） 3 ハーフマラソン大会（視覚障がい者を含む大会） 4 エルフィンロード活用事業（花水木ウォーク、歩くスキー） 上記の事業を平成１７年度より実行委員会の補助事業として実施。		
事務局の状況（20年度）	□補助団体にある　■市役所にある		
補助金等の充当状況（20年度）	□運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　　分	２０年度（決算）	２１年度（決算）	２２年度（予算）	
収　入	本市補助･交付金の額（A）	168	35		
	その他補助金	920	500		
	参加料	4,548	5,318		
	諸収入	109	89		
	その他(市町村振興協会助成金)				
	繰越金				
	収　入　合　計　（B）	5,745	5,942	0	
支　出	報償費	1,881	2,114		
	需用費	1,358	1,215		
	役務費	283	290		
	委託料	1,755	1,944		
	賃借料	468	379		
	支　出　合　計　（C）	5,745	5,942	0	
繰 越 金	収入（B）－ 支出（C）	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合	（A）÷（C）	3　%	1　%	%	
補助・交付金の対象経費（項目）		事業費	事業費	事業費	
補助・交付金の対象経費（金額）	（D）	5,745	5,942	0	
対象経費に対する補助または交付金の割合	（A）÷（D）	3　%	1　%	%	

補助・交付金の算出根拠	精算額

別紙 2

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	4507

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	きたひろしまエルフィンロードハーフマラソン実行委員会補助金		
交付先の名称及び代表者名	きたひろしまエルフィンロードハーフマラソン実行委員会　会長 加々見盛幸	設立年	平成21年度
構成員(団体)数	１６名　（22年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	エルフィンロードハーフマラソンを実施し、市民の健康増進及び市の活性化を図る。		
交付先団体等の活動内容	エルフィンロードハーフマラソン大会（視覚障がい者を含む大会）の実施		
事務局の状況（21年度）	□補助団体にある　■市役所にある		
補助金等の充当状況（21年度）	□運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　　分	２０年度（決算）	２１年度（決算）	２２年度（予算）	
収　入	本市補助･交付金の額（A）			400	
	その他補助金			0	
	参加料			5,546	
	諸収入			80	
	その他(市町村振興協会助成金)				
	繰越金				
	収　入　合　計　（B）	0	0	6,026	
支　出	報償費			2,150	
	需用費			1,165	
	役務費			301	
	委託料			1,940	
	賃借料			470	
	支　出　合　計　（C）	0	0	6,026	
繰 越 金	収入（B）－ 支出（C）	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合	（A）÷（C）	%	%	7　%	
補助・交付金の対象経費（項目）		事業費	事業費	事業費	
補助・交付金の対象経費（金額）	（D）	0	0	6,026	
対象経費に対する補助または交付金の割合	（A）÷（D）	%	%	7　%	

補助・交付金の算出根拠	定額補助

別紙 3

平成２２年度補助金等評価調書（現行補助金用）

整理番号	4507	補助金等名	スポーツフェスティバル開催事業補助金	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線890
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡　博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日

交付開始年度	H6	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付要綱
〃　終了予定年度			
補助金等の概要	３０㌔歩ける会、エルフィンロードハーフマラソン、花水木ウォーク、歩くスキー大会を実行委員会の補助事業として開催し、その事業費を補助している。		

上位施策との関連（総合計画での位置付け）	章	豊かな心と文化をはぐくむまち	（第 4 章）
	節	スポーツとレクリエーション	（第 5 節）
	施策	生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興	（第 1 施策）

【費用の予定額】　（単位：千円）

	区　分	21年度決算額	22年度予算額	23年度以降予定額	
				～　年度	毎年度
交付金額	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	35			
	合　計	35			

法律・北海道条令等で実施が義務付けられている事務事業か	□有　■無

評　価

チェック項目		採点	選択理由、説明等
公益性	次の項目のいずれかに該当していること (1)住民自治の向上、市民の福祉・健康増進が図られるもの (2)市民の安全で安心な生活に寄与するもの (3)市民の教育、文化、スポーツの振興に寄与するもの (4)地域の経済、産業の振興、雇用の促進に寄与するもの (5)市の施策として推進する事業を団体又は個人に対し積極的に奨励しようとするもの	4 ×3＝ 12	スポーツの振興に繋がり、かつ、市のPR及び活性化が図られる。
必要性	(1)事業活動の目的や内容等が社会経済情勢に合致している	4	市民に対し、スポーツ・レクリエーションの機会を提供し、スポーツの振興と健康増進を図ることは重要であり、また、市のPR及び活性化のためこれらの大会を実施することは大変意義がある。
	(2)行政と市民の役割分担の中で、真に補助すべき事業・活動である	4	
効果性	(1)効果が広く市民にいきわたり、特定の者のみの利益に供することのないもの	4	子どもから高齢者まで誰もが参加できる事業であり、市民の健康増進に寄与し、また、経済効果も大きい。
	(2)補助金等の交付に対して費用対効果が認められる	4	
適格性	個人に対する補助金等は(1)及び(2)の項目について採点し、団体等に対する補助金等は全項目について採点する。 (1)支出手続が、法令、条例、規則、要綱等に基づいていること (2)支出目的、範囲が法令の規定に抵触していないこと (3)団体等の会計処理及び補助金等の使途が適切であること (4)団体等において適正な監査機能を有していること (5)団体等の事業活動の内容と補助の目的との整合がとれていること	4	開催事業については、基本的には参加料でその大部分を賄っており、固定経費の一部分を補助金で補っており、適正な執行がされている。
採点合計		32　点	
採点区分	５点　大いに認められる　４点　認められる　３点　やや認められる ２点　あまり認められない　１点　認められない		

別紙 1

平成２２年度 事務事業評価調書（継続用）

北広島市

整理番号	4508	事務事業名	スポーツアカデミー事業	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線８９０
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日
事務事業開始年度	H18	根拠法令等					
〃　終了予定年度							

【１ 計　画 （プラン）】

上位施策との関連（総合計画体系）		（第　４　章）　豊かな心と文化をはぐくむまち
		（第　５　節）　スポーツとレクリエーション
		（第　１　施策）　生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興
目的	対　象（誰、又は何を）	市民
	意　図	※ 何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか。 ジュニアスポーツ選手のレベルアップのほか指導者の養成や底辺拡大を図ることにより、全国、国際レベルの選手育成及び青少年の健全育成を図る。
手段	平成21年度まで	※ 市が行った事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） 平成１８年度に、開校記念事業を実施 １　運営委員会の設置 ２　ジュニアスポーツ指導者養成事業の実施 ３　ジュニアスポーツ底辺拡大事業の実施 ４　部活動支援及びジュニアスポーツ選手強化事業の実施
	平成22年度	※ 市が行う事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容） １　ジュニアスポーツ選手強化事業の実施 ２　ジュニアスポーツ指導者養成事業の実施 ３　ジュニアスポーツ底辺拡大事業の実施 ４　部活動支援事業の実施

【２ 実　施 （ドゥ）】

（単位：千円）

【事業費の推移】		20年度決算	21年度決算	22年度予算	23年度の予定
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	164	77	360	360
	一般財源	445	668	500	500
	① 合　計	609	745	860	860
人　件　費（概算）	② 人　数（年間）	1.20	1.20	1.20	1.20
	③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	④ ＝②×③	10,800	10,800	10,800	10,800
総　事　業　費　①＋④		11,409	11,545	11,660	11,660

【事務事業を評価する指標（ものさし）】			指　標　値				
		指　標　名	単位	目標値	21年度(確定値)	22年度(予定値)	23年度(予定値)
基本指標		事業参加者数	人		968	1,000	1,000
活動指標	①	事業参加者数	人	1,000	968	1,000	1,000
	②						
	③						
	④						
成果指標	①	事業参加者数目標達成率 【参加者数/目標値】	%	100	97	100	100
	②	【指標の定義（算式等）】					
	③	【指標の定義（算式等）】					

整理番号	4508

【3 評　価 （チェック）】

チェック項目		評点	平成21年度における評価　（現状と課題）
妥当性	・市民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か （目的妥当性の度合） ・行政が関与しなければならない事務事業か （公共性・公益性の度合）	3	本事業は、スポーツ少年団をはじめ各関係団体との連携により、運営組織を設置して、市民とともにジュニアスポーツの振興を図ることを目的としていることから妥当である。
有効性	・成果指標値から見て、目標の達成度はどの程度か （達成度合） ・目的を達成するための手段（実施方法）は有効か （手段有効度合）	3	専門指導者によるジュニアスポーツ選手の強化育成、底辺拡大を図り、また、指導者を養成することにより正しい知識、指導方法を提供できスポーツ振興を図るうえで有効性は高い。
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか　（費用対効果の度合） ・効率的な方法で実施しているか （同じ経費でもっと効率的な方法はないか）	3	本事業が市民に定着し、市民の手によるジュニアスポーツの育成を図るので、その効率性は大きい。
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3	事業ごとに参加料を徴収、公平性は適正である。
評点区分	3　適　切　　2　改善の余地がある　　1　不適切		

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等で実施または協働して取り組むべきである。 □ 現在一部民間等で実施している。または市民等と協働して実施している。

【 参 考 】	事務事業担当部局による評価	外部評価委員会による評価	内部評価委員会による評価
前年度の総合判定	現状継続		現状継続

【4 総合判定と今後の方向性（アクション）】

【外部評価】　（外部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化 □ 現状継続 □ 見直し □ 統合 □ 休止・廃止 □ 終了

今後の方向性に対する意見

【自己評価】　（事務事業担当部局による評価）

総合判定（取組）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な取組　（課題と解決方法等）

本格的な事業実施から4年が経過し、徐々に本事業が市民に根付き、目的達成に向け今後更なる効果が期待されることから、当分の間継続して実施する。

【内部評価】　（内部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な方向性

目的達成状況を検証すること。

別紙 1

平成２２年度 事務事業評価調書（継続用）

北広島市

整理番号	4509	事務事業名	全国中学生空手道選抜大会開催事業	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線８９０
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日
事務事業開始年度	H18	根拠法令等					
〃　終了予定年度							

【１ 計　画 （プラン）】

上位施策との関連（総合計画体系）		（第　４　章）　豊かな心と文化をはぐくむまち
		（第　５　節）　スポーツとレクリエーション
		（第　１　施策）　生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興
目的	対　象（誰、又は何を）	市民
	意　図	※ 何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか。
		中学生を対象とした全国中学生空手道選抜大会を開催することで、北広島市を全国にＰＲするとともに、空手道を通じた青少年の健全育成を図る。
手段	平成21年度まで	※ 市が行った事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容）
		平成１８年度から４回に亘り　はまなす杯全国中学生空手道選抜大会を開催。
	平成22年度	※ 市が行う事務事業（団体補助等の場合は、その補助金による団体の活動内容）
		はまなす杯第５回全国中学生空手道選抜大会開催

【２ 実　施 （ドゥ）】

（単位：千円）

【事業費の推移】		20年度決算	21年度決算	22年度予算	23年度の予定
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	5,000	5,000	5,000	5,000
	一般財源	500	500	500	500
	① 合　計	5,500	5,500	5,500	5,500
人　件　費（概算）	② 人　数（年間）	0.50	0.50	0.50	0.50
	③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	④ ＝②×③	4,500	4,500	4,500	4,500
総　事　業　費　①＋④		10,000	10,000	10,000	10,000

【事務事業を評価する指標（ものさし）】			指　標　値				
		指　標　名	単位	目標値	21年度(確定値)	22年度(予定値)	23年度(予定値)
基本指標		大会来場者数	人	3,300	3,300	3,300	3,300
		参加都道府県数	数	47	47	47	47
活動指標	①	大会来場者数	人	3,300	3,300	3,300	3,300
	②	参加都道府県数	数	47	47	47	47
	③						
	④						
成果指標	①	大会来場者数	%	100	100	100	100
		【参加都道府県数/目標値】					
	②	都道府県参加率	%	100	100	100	100
		【参加都道府県数/目標値】					
	③						
		【指標の定義（算式等）】					

整理番号	4509

【３ 評　価 （チェック）】

チェック項目		評点	平成21年度における評価　（現状と課題）
妥当性	・市民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か （目的妥当性の度合） ・行政が関与しなければならない事務事業か （公共性・公益性の度合）	3	本事業は、（財）地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり推進事業」の助成事業であり、実施要綱上開催市が助成対象事業者となるため、競技団体との連携による事業実施は妥当である。
有効性	・成果指標値から見て、目標の達成度はどの程度か （達成度合） ・目的を達成するための手段（実施方法）は有効か （手段有効度合）	3	本事業の実施により、空手道を通じた市民スポーツの振興普及を推進するとともに、全国へ向けて北広島市をＰＲする絶好の機会となり、その有効性は高い。
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか　（費用対効果の度合） ・効率的な方法で実施しているか （同じ経費でもっと効率的な方法はないか）	3	本事業は、助成金と大会参加料による実施を主としており、行政の負担は必要最小限にとどめていることから、十分に効率的である。
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3	参加選手からは、参加料を徴収していること、また競技団体も負担金を支出していることから受益者負担は妥当である。
評点区分	３　適　　切　　２　改善の余地がある　　１　不適切		

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等で実施または協働して取り組むべきである。 □ 現在一部民間等で実施している。または市民等と協働して実施している。

【 参 考 】	事務事業担当部局による評価	外部評価委員会による評価	内部評価委員会による評価
前年度の総合判定	現状継続		現状継続

【４ 総合判定と今後の方向性（アクション）】

【外部評価】　（外部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化 □ 現状継続 □ 見直し □ 統合 □ 休止・廃止 □ 終了

今後の方向性に対する意見

【自己評価】　（事務事業担当部局による評価）

総合判定（取組）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な取組　（課題と解決方法等）

本事業は、基本的には１０年間の継続事業となるため、現状のまま継続していくが、大会実施ごとに状況を検証し、次回に向けた課題、問題点等を改善していく。

【内部評価】　（内部評価委員会による評価）

総合判定（方向性）	□ 拡大重点化　□ 見直し　□ 休止・廃止 ■ 現状継続　□ 統合　□ 終了

平成23年度に向けた具体的な方向性

自己評価のとおり現状継続とする。

別紙 ２

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	4509

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	全国中学生空手道選抜大会補助金		
交付先の名称及び代表者名	はまなす杯全国中学生空手道選抜大会実行委員会　会長　佐々木　利敦	設立年	平成18年
構成員(団体)数	１６名　（22年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	中学生を対象としたはまなす杯全国中学生空手道選抜大会をはじめ、地域拠点づくり事業の実施のために必要な事業を行う。		
交付先団体等の活動内容	平成２１年度　はまなす杯第４回全国中学生空手道選抜大会開催		
事務局の状況（２１年度）	□補助団体にある　■市役所にある		
補助金等の充当状況（２１年度）	□運営費のみに充当　□事業費のみに充当　■運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　分	２０年度（決算）	２１年度（決算）	２２年度（予算）	
収　入	本市補助･交付金の額（A）	5,000	5,000	5,000	
	開催市負担金	500	500	500	
	競技団体負担金	500	500	500	
	参加料	1,920	2,032	2,032	
	その他	301	300	300	
	繰越金	5	11	182	
	収入合計（B）	8,226	8,343	8,514	
支　出	賃金	223	319	330	
	報償費	1,630	1,345	1,700	
	旅費	2,204	1,649	2,200	
	需用費	2,385	2,965	2,368	
	役務費	327	321	330	
	委託料	378	420	350	
	使用料及び賃借料・備品購入	1,068	1,142	1,236	
	支出合計（C）	8,215	8,161	8,514	
繰越金	収入（B）－支出（C）	11	182	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合	（A）÷（C）	61　%	61　%	59　%	
補助・交付金の対象経費（項目）		事業費・運営費	事業費・運営費	事業費・運営費	
補助・交付金の対象経費（金額）	（D）	8,215	8,161	8,514	
対象経費に対する補助または交付金の割合	（A）÷（D）	61　%	61　%	59　%	
補助・交付金の算出根拠	定額補助				

別紙 3

平成２２年度補助金等評価調書（現行補助金用）

整理番号	4509	補助金等名	全国中学生空手道選抜大会実行委員会交付金	作成部署	教育部社会教育課	電話	内線890
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	部長職名	川幡　博行	課長職名	浜田　薫	作成日	平成22年5月31日

交付開始年度	H18	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付要綱
〃　終了予定年度			
補助金等の概要	全国中学生空手道選抜大会は（財）地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり推進事業」の助成事業で行っており、当センターからの補助金500万円と開催都道府県の空手道連盟と開催市町村の各50万円の負担金で賄われている。		

上位施策との関連（総合計画での位置付け）			
	章	豊かな心と文化をはぐくむまち	（第 4 章）
	節	スポーツとレクリエーション	（第 5 節）
	施策	生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興	（第 1 施策）

【費用の予定額】　（単位：千円）

	区　分	21年度決算額	22年度予算額	23年度以降予定額 23 ～ 27 年度	23年度以降予定額 毎年度
交付金額	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	500	500	2,500	500
	合　計	500	500	2,500	500

法律・北海道条令等で実施が義務付けられている事務事業か	□有　■無

評　価

	チェック項目	採点	選択理由、説明等
公益性	次の項目のいずれかに該当していること (1)住民自治の向上、市民の福祉・健康増進が図られるもの (2)市民の安全で安心な生活に寄与するもの (3)市民の教育、文化、スポーツの振興に寄与するもの (4)地域の経済、産業の振興、雇用の促進に寄与するもの (5)市の施策として推進する事業を団体又は個人に対し積極的に奨励しようとするもの	4 ×3＝ 12	スポーツの振興に繋がり、かつ、市のPR及び活性化が図られる。
必要性	(1)事業活動の目的や内容等が社会経済情勢に合致している	4	市のPR及び活性化のためには人を集める必要があり、短期間に３千人もの市外者を集客できる当大会を実施することは大変意義がある。
	(2)行政と市民の役割分担の中で、真に補助すべき事業・活動である	4	
効果性	(1)効果が広く市民にいきわたり、特定の者のみの利益に供することのないもの	4	３千人もの市外者を集客できるこの大会を実施することは、市の活性化が図られ経済効果は大きく費用対効果は十分認められる。
	(2)補助金等の交付に対して費用対効果が認められる	4	
適格性	個人に対する補助金等は(1)及び(2)の項目について採点し、団体等に対する補助金等は全項目について採点する。 (1)支出手続が、法令、条例、規則、要綱等に基づいていること (2)支出目的、範囲が法令の規定に抵触していないこと (3)団体等の会計処理及び補助金等の使途が適切であること (4)団体等において適正な監査機能を有していること (5)団体等の事業活動の内容と補助の目的との整合がとれていること	4	交付金は全て空手大会の事業費に充てられ、補助目的との整合性は図られている。
採点合計		32　点	
採点区分	５点　大いに認められる　４点　認められる　３点　やや認められる ２点　あまり認められない　１点　認められない		